2023年度事業報告

**Ⅰ．社会的養護の必要な子どもの自立支援**

１．こども・若者未来基金

こども・若者未来基金による、給付型支援を継続しました。

①　通常メニュー

・今年度は、21名27件、総額8,160,000円の給付を決定しました。給付決定額については、以下の表をご確認ください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| メニュー | 件 | 給付決定額（円） |
| くらしスタート | 9 | 2,250,000 |
| くらしサポート | 6 | 2,820,000 |
| 資格サポート | 3 | 690,000 |
| まなびサポート | 7 | 1,400,000 |
| つなぎサポート | 2 | 1,000,000 |
| 合計 | 27 | 8,160,000 |

②　若者への寄り添い型支援枠

困難を抱えた若者たちに寄り添う伴走者が、若者のために自由に使える費用の補助を目的とした新しい支援の形を始めました。今年度は、助成対象を千葉県内自立援助ホームとし、３０万円を上限に５団体に給付しました。

③　緊急メニュー

・2019年度に受けた遺贈を原資とし、募集期間を設定した通常メニューとは別枠で、公的な支援が届きにくい若者へ10万円を上限としできるだけ早いスピードで給付をするものです。今年度は、3名に助成しました。

・「緊急サポートSOS」の趣旨に賛同いただいた企業より、昨年に引き続き30万円の寄付がありました。

④　こども・若者未来基金の寄付募集目標は12,000,000円とし、基金運営委員会に参加の3生協（パルシステム千葉、生活クラブ生協、なのはな生協）とともに寄付募集を呼びかけました。実績は、8,243,434円と目標を下回りました。クラウドファンディングを含めた当基金への寄付は2,730,436円、3生協からの寄付は、5,512,998円でした。

⑤　ちばこどもおうえんだんの会員や寄付者には、12月のボーナス時期にニュースレター発送と共に寄付を呼びかけました。3生協は9月から、組合員への個別チラシやHP、店舗へのカンパ箱の設置などの方法で、寄付募集を呼びかけました。

⑥　クラウドファンディングは目標を200万円とし10月18日〜1月16日まで実施しました。結果は642,000円　50名の方からの寄付が集まり、手数料・消費税を引いた557,256円が振り込まれました。

⑦　5月27日（土）基金報告会2022を幕張メッセ会議室にて、会場のみで開催しました。参加者57名。基調講演は、高橋克己氏を講師として迎え、「はぐくみの杜の子どもたちの日々～社会的養護の現状と、私たちが考えなければならないこと～」をテーマに、講演していただきました。2022年度の基金助成状況の報告を生協団体からしていただき、2022年度に助成した若者たち3名のトーク会も行いました。

⑧　「社会的養護のこどものくらしと自立を考えるシンポジウム2023」を2回開催しました。

【第1回】

日時：10月2日（月）10：00～11：30 京北ホール（柏市）

テーマ：「社会的養護のこどもたちに寄り添って」

登壇者：向後まゆみさん　（児童養護施設一宮学園）

　　　　　　松丸安さん（千葉県里親）

参加者：30名

【第2回】

日時：10月22日（日）14：00～16：30　場所：千葉市文化センターセミナー室

テーマ：「子ども基本法は社会的養護のこどもたちを守れるか」

講師：宮本みち子さん（千葉市子ども基本条例策定検討委員会委員長）

参加者：55名

⑨　こども・若者未来基金の周知のため、7月に児童養護施設や自立援助ホーム、母子生活支援施設、千葉県里親会、ファミリーホーム等へ基金の募集要項を送付しました。

⑩ コロナ禍により休止していた交流会を、8/5（土）パルひろば☆ちばで開きました。2022年度に給付した若者６名と伴走者６名、こどもおうえんだんから３名が参加しました。

２．食料衛生用品支援

基金による金銭的支援の他に、これまで基金を給付し伴走者を通して希望のあった若者に、7月と12月に食料衛生用品支援を実施しました。3生協から食料品、フードバンクから食料品やマスクなどの衛生用品、千葉市社会福祉協議会から飲料や食料品を提供いただきました。さらに12月には悠翔会在宅クリニック稲毛から靴下の提供をしていただきました。7月は48名に、12月は45名に支援を渡すことができました。

３．就労支援

就労支援については、複数の企業から就労支援をしたいという申出がありますが、実質的な就労には至っていません。今後具体的な就労方法を検討します。

４．その他

①　今まで支援した若者たちについて、資料を取りまとめ、国・県・市等へ政策提案することを目指していますが、適切な資料の取りまとめができておらず、政策提案には結びつけることができませんでした。

②　2022年度より基金の助成対象について検討してきましたが、今年度新しく「若者への寄り添い型支援枠」を立ち上げ、給付に至りました

【参考】

2020～2023年度給付決定状況　　　（単位：円）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| メニュー | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
| 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 |
| くらしスタート | 10 | 2,490,000 | 12 | 2,600,000 | 13 | 3,130,000 | 9 | 2,250,000 |
| くらしサポート | 10 | 5,652,000 | 7 | 4,860,000 | 9 | 4,060,000 | 6 | 2,820,000 |
| 資格サポート | 1 | 250,000 | 1 | 150,000 | 0 | 0 | 3 | 690,000 |
| まなびサポート | 7 | 1,400,000 | 15 | 2,700,000 | 8 | 1,600,000 | 7 | 1,400,000 |
| 入学金つなぎサポート | 0 | 0 | 4 | 2,000,000 | 1 | 500,000 | 2 | 1,000,000 |
| **合計** | **28** | **9,792,000** | **39** | **12,310,000** | **31** | **9,290,000** | **27** | **8,160,000** |
| 寄り添い型支援 | **-** | **-** | **-** | **-** | **-** | **-** | 5 | **1,430,000** |
| 緊急サポートＳＯＳ | 5 | 500,000 | 3 | 300,000 | 7 | 700,000 | 3 | 205,000 |
| **総計** | **33** | **10,292,000** | **42** | **12,610,000** | **38** | **9,990,000** | **35** | **9,795,000** |

\*表内の数字は決定額で、実際の給付額とは異なります

2020年度～2023年度寄付額　　　（単位：円）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
| 寄付総額 | 12,796,810 | 12,006,743 | 8,789,958 | 8,243,434 |
| (内、3生協分) | 7,890,310 | 8,484,033 | 6,565,508 | 5,512,998 |

**Ⅱ．貧困家庭・要支援家庭の子どもの支援事業**

　　千葉県内で子ども関連の活動をしている団体と連携して、千葉市こども交流館で「ちばこどもおうえん広場2023＆子どもの虐待防止オレンジリボンキャンペーン」を開催し、事務局として携わりました。第1部「千葉県子どもの人権懇話会」では「18歳＝成年。成年すると何が変わる？」をテーマに千葉県弁護士会子どもの権利委員の村山直さんの基調講話、第2部では子ども・若者によるトークセッションを行いました。

**Ⅲ．里親家庭支援について**

1. 千葉市より千葉市里親委託等推進委員の委嘱を受け、「千葉市里親委託推進委員会」に参加し、千葉市における里親推進の状況の把握や、関係機関や他団体との情報共有を行いました。また、委員会の一員として千葉市里親制度啓発パネル展示に参加しました。

2.　2022年度から引き続き、里親養育包括支援（フォスタリング）事業のひとつとして、千葉市里親学習サポーター事業を受託しました。応募してくれた福祉、教育関係の大学生たちに里親家庭の委託児童・実子に日頃の学習の補助を行う学習サポーターとして里親制度について理解を深める研修を行い依頼のあった里親3家庭4名の委託児童のもとへ派遣しています。

**Ⅳ．啓発・広報事業**

１．啓発事業

①　社会的養護の子どもの暮らしと自立を考えるシンポジウムを2回開催しました。

詳細は「Ⅰ．社会的養護が必要な子どもの自立支援」の項をご覧ください。

②　「子どもの人権懇話会」の開催に協力しました。詳細は「Ⅱ．貧困家庭・要支援家庭の子どもの支援事業」の項をご覧ください。

2．広報事業

①　ニュースレターを、7月（総会後）、12月（秋のシンポジウム等の終了後）、2回発行しました。基金で助成した子どもたちへのインタビューなどを掲載しました。

②　ツイッターを継続更新しています。フォロワーが増えず、苦戦していますが、今後もおうえんだんの活動の周知に努めます。

③　ちばこどもおうえんだんに参加する県内3生協（パルシステム千葉・生活クラブ生協・なのはな生協）の機関紙等で、組合員に向け団体の活動を発信しました。

④　生活クラブ虹の街が開催する「虹いろフェスタ2023」に出展し、おうえんだんの活動の周知に努めました。また機関誌に年2回ちばこどもおうえんだんの紹介を出しています。

**Ⅴ．調査研究活動事業**

6月に、これまで子ども・若者未来基金で助成した子どもたちの伴走者に、コロナの影響も含めて現況の聞き取りをし、食料衛生用品支援につなげました。学生は、オンラインだけでなく、対面での授業が再開し、友達が増えてきた、アルバイトもできるようになってきたという状況にあり、徐々にですが、以前の生活に戻りつつある様子が見受けられました。

**Ⅵ．その他**

1. パルシステム奨学金事業への奨学生の推薦と伴走支援

毎月のヒアリング（電話・面談）により、昨年までの4名と2023年度に推薦した2名を合わせ、計6名の大学生の伴走支援をし、報告書を事業事務局の一般社団法人くらしサポートウィズに提出しました。2020年度にモデル事業として始まった「パルシステム給付型奨学金」に推薦した学生は、2024年3月に大学を卒業しました。

9月に開催されたパルシステムの「一般財団法人 パルシステム若者応援基金」設立記念式典において、ちばこどもおうえんだんの「こども・若者未来基金」の紹介と、パル奨学生の伴走支援の状況について報告しました。

11月には伴走者支援団体連絡会議、3月には、この事業初の卒業を迎える学生を支援した団体による伴走支援団体報告会に参加し、報告を行いました。

今後は毎年、卒業・就職をする学生がいることから、ますます伴走支援の重要性も増し、また伴走支援の資質の向上も必要となってきます。

1. 「わくわくプロジェクトＣＨＩＢＡ」事務局

昨年度に引き続き、1月に千葉県立生浜高校1年生を対象に「すきなものビンゴI・II＆わくわくエンジン発見シート」プログラムを午前と午後の2回実施しました。生徒たちから「好き」という気持ちを引き出し、自己肯定感を高め、将来の自立した社会生活に活用したいとの学校側の期待に添うべく今年もメンバー一丸となって取り組みました。

2018年度から生活クラブ千葉グループが主体となって進めていた本活動は今年度で終了となりました。

**Ⅶ．組織運営**

1．運営体制

事業を円滑にすすめるために、以下の通り理事会等を開催しました。

理事会

|  |  |
| --- | --- |
| 開催日 | 主な案件 |
| 4月20日 | （1）第8回通常総会について（2）こども・若者未来基金2022基金報告会について |
| 5月27日 | （1）理事の役割分担について |
| 7月14日 | （1）こども・若者未来基金募集要項、申請について（2）基金シンポジウム開催について（3）食料衛生用品支援報告 |
| 11月8日 | （1）こども・若者未来基金シンポジウム開催報告　（2）基金規則改正について |
| 2月28日 | （1）こども・若者未来基金2023年度助成決定について　（2）第9回通常総会について |

こども・若者未来基金運営委員会

|  |  |
| --- | --- |
| 開催日 | 主な案件 |
| 6月19日 | 2023年度基金申請について、シンポジウム開催について |
| 11月1日 | 基金申請者面接について、基金規則改定について |
| 12月12日 | 基金申請者の確認 |
| 1月22日 | 寄付額の確認、助成決定について |
| 3月21日 | 総会での「こども・若者未来基金」の活動報告と次年度計画の確認基金報告会開催について |

こども・若者未来基金生協実務者会議

|  |  |
| --- | --- |
| 開催日 | 主な案件 |
| 5月24日 | 基金報告会開催について |
| 8月22日 | 基金シンポジウム開催について |
| 3月 | 基金報告会開催について |

2．会員拡大について

①　新規加入者が10人増え、会員数は目標を達成しました。

②　寄付者の寄付控除ついては、ニュースレターに掲載して周知を図りました。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 目標 | 実績 |
| 2023年度会費納入済み会員 | 会員総数 |
|  | 人数・団体数 | 口数 | 人数・団体数 | 口数 | 人数・団体数 | 口数 |
| 運営会員 | 個人 | 16人 | 20口 | 11人 | 11口 | 14人 | 14口 |
| 団体 | 5団体 | 54口 | 4団体 | 53口 | 5団体 | 54口 |
| おうえん会員 | 個人 | 150人 | 170口 | 107人 | 156口 | 147人 | 220口 |
| 団体 | 10団体 | 12口 | 7団体 | 9口 | 7団体 | 9口 |

＊定款第3章会員第9条（3）に「継続して2年以上会費を滞納したときに、会員の資格を喪失する」とある。実績の会員総数には2023年度会費未納者も含まれる。

2023年度決算報告の活動計算書「受取会費」は、「2023年度会費納入済み会員」数による。

3．その他

2024年3月、同じ敷地内の生活クラブ風の村へ事務所を移転しました。

＜資料＞

特定非営利活動に係る事業

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 事業名 | 事　業　内　容 | 実施日時 | 実施場所 | 従事者の人数 | 受益対象者の範囲及び人数 |
| 自立支援事業 | 社会的養護の子どもたち（第１回） | 10月2日（月）10：00～11：30 | 京北ホール | 6人 | 社会的養護の子どもの自立支援に関心のある不特定の参加希望者　30人 |
| 自立支援事業 | 社会的養護の子どもたち「子ども基本法は社会的養護のこどもたちを守れるか」（第２回） | 10月22日（日）14：00～16：30 | 千葉市文化センター | 6人 | 社会的養護の子どもの自立支援に関心のある不特定の参加希望者　55人 |
| 貧困家庭・要支援家庭の子どもの支援事業 | ちばこどもおうえん広場人権懇話会 | 11月5日（日）13：30～16：00 | 千葉市きぼーる3階こども交流館アリーナ | 3人 | 子どもと子どもの支援に興味関心のある不特定の参加希望者77名 |
| 里親家庭支援事業 | 千葉市里親学習サポーター事業 | 依頼に応じて随時派遣 | 里親家庭宅 | 2人 | 千葉市里親家庭 |
| 啓発・広報事業・政策提案 | SNSやHPを活用した情報発信 | 随時 | 法人事務所内 | １人 | 不特定多数 |
| ニュースレターの発行 | 7月、12月、3月 | 法人事務所内 | 6人 | 会員・寄付者約280人 |